

奉納書道展、締め切り迫る！(九月二十日(土)まで) 各院または納経所へお届け下さい。



題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院藏)

餘慶寺だより
 編集・発行 上寺山餘慶寺
 〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187
 納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
 恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788
 本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
 吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
 定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
 明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
 圓乘院 TEL 086-942-2356
 ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

上寺の梵鐘が
九州国立博物館特別展へ
出品されます！

夕暮れ時、西日
 に向かって座禅で
 もしていると、上
 寺の鐘の音は、心
 の奥にまで響いて
 参ります。それは
 先祖代々の長い年
 月、地域住民の暮
 らしに深く密着し
 て、私たちの心を和ませてくれた証しでもあるので
 しよう。



そんな上寺の鐘が、しばらく鳴らなくなりま
 せかと申しますと、福岡県太宰府市に「九州国立博
 物館」がありますが、来年が開館十周年を迎えます。
 そこで特別展が企画され、「上寺の鐘」が展示の目玉
 として、ゆかりの深い
 九州へ出品される運び
 となったからでありま
 す。
 詳しくは、秋の餘
 慶寺寺宝展の特別講
 演にて、講師の望月先
 生よりお話をしてい
 だきます。聴講無料
 です。是非ご参加
 下さい。



餘慶寺 秋の行事

寺宝展 (本堂・薬師堂)

十月十二日(日) ※薬師堂のみ
 十月十三日(月・祝)
 九時三十分～十六時
 講演会 十三時～十四時三十分
 餘慶寺会館

薬師堂は特別拝観会場のため、
 護摩供養は行いません。護摩のご
 祈禱をご希望の方は、毎月八日の
 縁日にお参り下さい。

奉納書道展 (薬師堂)

十月十一日(土)
 十月十三日(月・祝)
 九時～十五時

例年の通り秋の寺宝展にあわせ
 て開催いたします。奉納いただい
 た作品が薬師堂の壁に展示され
 ます。

もみじカフェ (会館北側)

十月十一日(土)
 十月十三日(月・祝)
 十時～十六時

寺宝展を含めた秋の三連休限定
 での開店です。飲み物・お菓子セ
 ットで四百円です。

天台会 (本堂)

十一月二十三日(日) 十六時
 二十四日(月・振休) 八時
 本堂

天台宗を開いた天台大師のご命
 日です。餘慶寺本堂では内陣の右
 奥にお祀りしてあります。前夜
 にも法要があり、「天台大師和讃」
 を読みます。

各院からのお知らせ

恵亮院より

毘沙門天王縁日護摩祈禱
 (於 恵亮院毘沙門堂)
 毎月三日 午前十時～

本乗院より

写経会 (於 本乗院客殿)
 毎月第三日曜日
 四月～十月 午前六時～
 十一月～三月 午前七時～

定光院より

大聖歡喜天縁日(於 定光院)
 毎月十五日 早朝より
 ※病氣平癒等のご祈禱は随時
 受付してあります。

餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)
 毎月八日 午前十時～
 護摩供養をしています。
 ご祈禱のお申し込みは納経
 所へお願いします。
 観音縁日(於 本堂)
 毎月十八日 午前八時～
 みんなで観音経をあげます。
 お経本は本堂にありますの
 で、お気軽におまいりくだ
 さい。

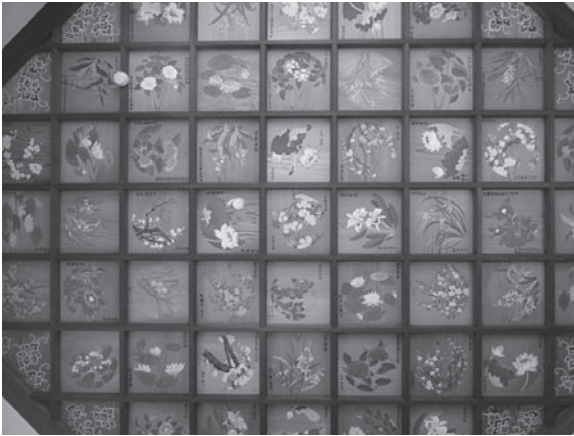
吉備の国 寺社巡り スタンプラリー開催中!

特別寄進のおすすめ 八角堂天井絵

八角堂の天井を見上げると、極彩色ゆたかに、桜、梅、蓮、睡蓮、紫陽花、椿、蘭、山吹など草木の絵が配されています。これは建築彩色の保存修理に携わっている京都修復美術の久安勝土師によって描かれました。一枚一枚、色とりどりに白・赤・黄・青と、天井の杉板に美しい花が鏤められています。

天井絵は、特別寄進の一環として六十一口ご用意させていただきましたが、残りわずかとなりました。ご寄進は一口十五万円でお受けしております。好きなお花を選んで下されば、そこに餘慶寺住職がお施主名とお願いごとの墨書をして、後世に善行を伝えてゆきます。

どうぞ皆様のご芳志によって、永遠に枯れないお花をお供えいたしましょう。



施餓鬼会・万灯会報告

八月三十日(土) 十八時より、餘慶寺本堂境内において施餓鬼会・万灯会を執り行いました。「施餓鬼会」とは、餓鬼(用う者のない無縁の亡者)のためにいろいろな種類の飲食を施す法会です。また、「万灯会」とは、仏さまに灯明を供え、滅罪生善や諸願成就を祈念する行事です。

当日は、天候にも恵まれ、檀信徒の皆様や地域の方々がたくさん参拝に来られ、厳粛な中にも盛大な法会となりました。また、万灯会では、境内を照らす供養の灯りと、尺八・琴の演奏が絶妙に交じり合い、荘厳な雰囲気心が癒される思いでした。さらに、同時開催された縁日広場では、大人だけでなく、子ども達の賑やかな声が聞こえ、和やかな様子にたくさんの方々の笑顔がこぼれていたのが印象的でした。

最後になりましたが、当日ご尽力して下さいました方々に厚く御礼申し上げます。これからも、皆様にとつて良き餘慶寺へ発展していきますよう、ご協力をお願い申し上げます。



ひとくち法話

「無縁」

「私とあの人は無縁です」「縁が無かったものとあきらめてください」などという会話を耳にします。この無縁も仏教語です。仏教でいう本来の無縁は、仏縁の無いこと：特に今迄において仏様と縁を結んでいなかったことです。「縁無き衆生は度し難し」の句の通り、仏・菩薩との縁が無いことは救われる機会が少ないことであり、悲しいことです。

でも、仏様の慈悲は広大です。「無縁の大悲」ということがあることも伝えておきます。仏様は、縁あるものを救うことはもちろんですが、対象を特定せず、普く一切の衆生に慈悲を授けることもします。「観音の大悲、法界に馳せて有情を救うなり」と仏様は、区別なく一切の衆生に対して起こす絶対平等の大慈悲心を持っておられます。ちょうど、お日さまが誰かれの区別無くあたたかく照らすように、あるいは慈雨が誰かれの区別無く全てのものを潤すように、仏様の慈悲は無条件で平等です。ただ、その受け取り方に差異があります。植物によって日光や雨のとらえ方に差があるように、人もまた己が心によって受け取り方を違えてしまいます。しっかりと仏様の方を向いて暮らしたいものです。

ところで、この無縁という言葉が一般に使われる時、単に縁の無いこと・つながりの無いことを表します。「無縁仏」などという造語は、仏教語本来の意味を無視した言葉で、死後を弔う縁者の無い亡者を指します。亡者はいずれ仏に成る者ですが、そのままでは、仏としての縁が無いのを見れば、この使い方も許させるかもしれません。が、とにかく、私達は無縁仏にならぬよう、仏様との縁を大切に、子孫繁栄を願って行くことにしましょう。



読者投稿

「○○○○のくせに」

インソップ物語の中にライオンとネズミの話があります。草むらを駆け巡っていたネズミが、昼寝をしていたライオンの背中を岩だと思つて上がつてしまいました。びっくりして目を覚ましたライオンはネズミを捉えて食べようとしました。ネズミは、震えながら命乞いをしました。「どうか命を助けて下さい。助けてくださったら、きつとご恩返しをいたします。」ライオンは、ネズミのくせにそんなことなんて、できるものかと思いつながらも、百獣の王という誇りと慈悲心もあつてか、ネズミを放してやりました。

ところが、数日たったある日のこと、あのライオンが狩人の網に捕らえられているではありませんか。ライオンが悔しがっていると、あのネズミがやつてきて、鋭い歯で噛み切りライオンを助けてやりました。

もし、ライオンがネズミのような弱い者のくせにこの俺様に恩返しなんて出来るものかと馬鹿にしていたらライオンは助けてはもらえなかつたでしょう。この話は、自分より弱いからといって侮ることなかれ、という教訓を論ぞうとしたものと思います。

この話に関係して、仏教には、もつともつと深遠な「生きとし生けるものを慈しむ」と言った思想があります。お釈迦様が生前に施された慈悲、それがあつたからこそ、涅槃を知つて駆け付けた人や動物などが嘆き悲しんでいるのだらうと思ひます。またいつか展示される「涅槃図」をゆつくり見たいものです。



薬師護摩祈祷 護摩木三百円 木札授与三千円／五千円

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

十三仏について〜薬師如来〜

薬師如来（七七日）

薬師如来さまはお名前のとおり左手に薬壺くすりつぼを持ち、右手でその薬を塗るお姿をしています。

比叡山の根本中堂こんぽんちゅうどうのご本尊さまです。また餘慶寺薬師堂には平安時代初期の大きな像がおまつりしてあります。

お医者さんが薬を使って病気を治すように、我々の病気や心の悩みが良くなるように導いて下さる仏さまです。

薬師如来さまは仏になる前に人々の病気を治し、食料が得られない人や貧しくて困っている人を助けようという誓いを立てられました。人々が苦しみから救われ、みんなが幸せになることを願ったのです。

伝教大師最澄でんぎょうだいしさいしやうさまが比叡山ひえいざんに入って修行をはじめられたとき、薬師如来さまの像を彫られました。それはこれからの修行生活を守っていただき、みんなの幸せを祈るためでした。



よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館（十四時〜）

寺子屋写真館



今後の予定

☆『初心者向け涅槃図解説』

講師 明王院住職

九月 六日（土）

中尾叡海師

☆『平成の大改修からわかったこと』

〜その2〜

九月十五日（月・祝）

有森 剛先生

☆『餘慶寺の梵鐘と九州の鋳物師』

十月十二日（月・祝）

講師 九州国立博物館文化財課研究員 望月規史先生

☆『初心者向け両界曼荼羅解説』

十月十八日（土）

講師 明王院住職 中尾叡海師

☆『お経に親しむ（二）』

十一月一日（土）

講師 惠亮院名譽住職 横野祐彰師

☆『手づくり年賀状・絵はがき（仮）』

十二月六日（土）

講師 日本画家・岡山日展会会員 神戸淑子先生

☆『法事について』

十二月十三日（土）

講師 惠亮院名譽住職 横野祐彰師

※聴講無料です。お誘い合わせのうえ、ご参加下さい。

（ただし、十月六日（土）のみ、参加費五百円必要）

十月十三日（月・祝）は十三時〜十四時半開催です。

十二月六日（土）は十四時〜十六時開催・先着三十名（要申込）です。

編集後記

お盆が過ぎ、蝉の鳴き声も少なくなってきました。残暑は続きますが、秋の訪れをふと感じることの一つです。お盆期間の八月は休講していましたが、九月からは、月二回開講予定です。堅苦しくない講義ですので、お気軽に是非ご参加下さいね。